

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800611	事業の開始年月日	平成16年3月1日	
		指定年月日	平成16年3月1日	
法人名	特定非営利活動法人 都筑の丘			
事業所名	グループホーム 都筑の丘			
所在地	( 〒224-0057 ) 神奈川県横浜市都筑区川和町1705			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	認知症対応型共同生活介護	定員計	27名	
		ユニット数	3ユニット	
自己評価作成日	平成23年12月15日	評価結果 市町村受理日	平成24年5月16日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム 都筑の丘に入居されたご本人は勿論、ご家族も安心して生活をしていただけることを目標にしています。そのためには職員が入居者様一人一人の思い、気持ちに添えるように努力しています。自然に恵まれた環境の中で、四季を感じながら穏やかに、楽しく毎日を過ごして頂いています。週2回全入居者様が集まって行う機能向上を目指した燦々会や月2回の音楽療法の爛々会は様々な効果が出てきています。特に週2回の燦々会は全員が集まるという行動が日常のことであり避難訓練の時などはスムーズに動けるようになってきています。地域の中で川和町の住民として暮らしていることが地域の方々からも違和感無く受け止めて頂いていると思います。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年1月19日	評価機関 評価決定日	平成24年4月24日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所の概要】**  
この事業所は、横浜市営地下鉄川和駅から徒歩10分ほどの、畑や竹林が残る静かな住宅街の中にある。桜やはなももなど四季折々の花が咲く木々や花壇がある広い敷地に、平屋建てと2階建ての建物があり、それぞれの建物から中庭に出られるようになっている。中庭には、ベンチやテーブルが配された東屋があり、地域の住民が立ち寄ってゆくような憩いの場にもなっている。敷地の裏側には、事業所の畑があり、季節の作物を作っている。建物内は、天井が高く、明るく開放的でバリアフリーとなっている。

**【地域の一員として支え合う取り組み】**  
「地域の一員として、心豊かな生活を送れるように支援します」を理念の一つに掲げ、地域との交流に積極的に取り組んでいる。地域の行事に参加するだけでなく「都筑の丘納涼祭」「新春餅つき大会」を主催している。地域住民に広く参加を呼びかけ、地域住民や家族、ボランティアが100人規模で参加する定着した行事となっている。また、絵手紙、習字、囲碁、ハーモニカコンサート、お茶会、畑仕事など多彩なボランティアが利用者の心豊かな生活を支援している。

**【多彩な楽しみごとの支援】**  
節分、ひな祭りなどの伝統行事や、野菜の収穫、いも掘り、漬物作りなどの季節に応じた行事、月1回の外出・外食、誕生会など多彩なプログラムを用意している。利用者の経験や知恵を発揮してもらいながら、楽しめるよう支援している。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 都筑の丘
ユニット名	みずき棟・やまぶき棟・あじさい棟

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の名札の裏に5つの理念を明記し確認できるようにしている。毎週月曜日の朝礼時復唱している。毎日の朝礼時報告の中で理念に基く事例を取上げている。	理念は、開所時に「地域社会の一員として」を念頭に「自分が入居したいホーム」を作りたいという思いで、理事や職員で話し合っ作りあげたものである。研修では、職員が自分が一番好きな理念について思っていることを発表し、職員全員で話し合い、理念についての理解と共有を深めている。朝礼の報告の中で、利用者に対して理念に基づいたケアが実践されているか確認している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員の通勤時、散歩時には進んで挨拶をしている。自治会に加入し町内の行事には参加している。ホームの納涼祭、餅つきなどに地域の方々に参加して頂いている。ホームの近くに学童保育があり子供たちが声をかけてくれる。	町内会に加入し、夏祭りなどに参加している。事業所主催の納涼祭や餅つきなどの行事には、地域住民やボランティアが多数参加している。広い敷地には、囲いの塀がなく子供たちが遊んだり、地域住民が利用者と一緒に体操をしたり、中庭の東屋で休憩したりして、自然な形で交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の商店から食材を調達していることによる商店街の活性化、川和小学校の認知症サポーターの講師として、子供たちにも認知症を理解してもらっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に認知症を理解して頂き、介護保険制度の中でのグループホームの位置づけなども理解して頂くことができる。地域連携の消防訓練の協力もしていただいている。	運営推進会議は、年に3~4回開催されている。事業所の行事、職員の異動、活動予定などを報告し、話し合いをしている。6月の会議では、外部評価結果や、利用者家族のアンケート、目標達成計画について意見をもらっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の研修、勉強会にも積極的に参加し、区役所主催の認知症サポーター連絡会、認知症フォーラムのスタッフとして活動している。	区の高齢福祉課、地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加して事業所の情報を共有している。市や区が主催している研修に参加している。管理者は、認知症サポーター連絡会の一員として、小学校に出向き「認知症サポーター100万人キャラバン」の講師をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束はしないという前提でケアを行っている。玄関の施錠に関しては周囲の環境、認知症であるが故に必要な方法であることをご家族に入居時に説明してご理解頂いている。</p>	<p>身体拘束はしないケアを実践している。身体拘束についての研修を行い、特に精神的拘束に注意し、言葉をさえぎったり、決めつけをしないようにしている。玄関の施錠については、家族に説明し了解を得たうえで実施している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>肉体的なものだけではなく、精神的な虐待（特に言葉の暴力）は絶対に行ってはいけないことを徹底している。職員同士で異常が見られたらすぐに報告、原因究明をするようにしている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員は自立支援の重要性を理解しており、日々実践している。権利擁護に関しては地域の住民の為の勉強会を企画し職員も参加したことがある。成年後見人の必要性は理解している。制度を利用されている方もいた。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時相談員が利用者、及び代理人の権利（第10条）義務（第13条）契約解除（第14条）をわかりやすく説明し、納得していただき同意を得て契約している。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部評価のアンケートの回答を全職員に見せて、改善すべき点は早急に検討し実行している。ご家族が来棟された時、ホーム長が近況報告をしながらお話をお聞きしている。場合によっては管理者が対応している。</p>	<p>家族には、面会や行事参加時に利用者の様子を話している。毎月「入居者報告書」を送付し、利用者の1日ごとの生活の様子や健康状態を知らせている。家族からは、報告内容についての具体的な質問が寄せられ、意見や要望を表す機会となっている。外部評価の家族アンケート結果を職員で話し合い、見送りの仕方を変更するなど迅速に対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のワーカー会議で出た問題点、要望案などはすぐにその後の全体会議で検討、改善している。各行事の実行委員による反省会で出されたことは来年度に反映されている。	毎月のワーカー会議で、職員が自分の話したいこと、変えたいと思うことを事前に提案し話し合いをしている。そこで出された意見や提案は、理事、ホーム長、施設長らで構成する全体会議で協議している。行事の運営についての意見などが多数出されている。新人の職員については、管理者が定期的に個人面談をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の持っている能力、実績、貢献度などを公平に見極め、職員が向上心を持って安心して働けるよう努力している。介護職員処遇改善交付金も申請している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、介護支援専門員の受験時も便宜を図っている。社内研修は全職員が参加できるように日程を組んでいる。社外研修にも多くの職員が参加できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会、神奈川高齢者認知症グループホーム協議会に加入し複数連携事業にも参加し交流をしている。都筑区の認知症サポーターとして活動している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に作って頂いたアセスメントをもとにしながらお話をする。入居初期は緊張や不安が多く、職員だけではなく、入居者にも協力して対応をしている。職員は帰宅願望は当たり前のことと理解している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の入居者さんに対する思い、ホームに対する希望など遠慮なく言える雰囲気を作り、ご家族が安心して頂ける環境を作っている。納得出来るまで見学相談をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の不安な気持ちを理解し、あせらずに根気よく対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9人の入居者と職員が下宿屋さんのように暮らせることが理想。それぞれの得意分野を職員が把握し協働している。時にはトラブルも発生するが、それも日常生活と捉えている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはいつでも、気軽に来て頂ける様にしている。家族と職員が協力しあうことが入居者さんの安心と安定に繋がると思って援助している。ご家族に安心していただくこともケアと考えている		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで過された環境を大切に、家族、友人の訪問、外出はとても良いことだと思っている。	入居時のアセスメントで利用者の生活歴や、希望について細かく聞きとり、馴染みの人や場所の把握に努めている。地域の人、親戚や友人の来訪がたびたびあり、中には友人と外出する利用者もいる。手作りの絵手紙や年賀状を出す支援をしている。お墓参りや馴染みの美容院へは、家族が付き添って出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、合わない人を職員が常に視野にいれている。仲よし同士で入浴したり、遅くまで訪室しおしゃべりをしていることはとても良いことだと思っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現段階では該当するケースはない。今後必要なケースが出現した場合は相談、支援していきたいと思う。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族、ご本人の思いを大切に、個別ケアを大切にしている。感情の表出ができない方は思いをくみ取る努力し、効果がでてくる。病状などを考えながら。	アセスメントや利用者との会話から、思いや意向の把握に努めている。ケース会議で話し合い、情報や気づきを共有しながら介護計画に反映させている。意向を言葉にしづらい利用者には、利用者の家族から好きなことを聞き取り、話の糸口を見つけ、コミュニケーションをとるようにしている。会話をしなかった利用者が、好きなクイズ番組の話をきっかけに、言葉を発するようになったこともある。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	体験入居時に幼少時から現代までの状況をご家族と一緒にアセスメントを行い、職員も良く理解し、今後のケアに反映させている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の過ごし方、心身の状態は業務日誌に記録され出勤した職員は業務開始前に必ず目を通し、業務の引継時に確認して業務に入っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は入居者一人ひとりのケアプランを理解したうえで援助目標が達成できるように支援している。本人の気持ち、ご家族、医療関係との連携を密にとりながら、情報の共有をしている。	介護計画は、利用者、家族の希望、利用者の日々の変化が記された業務日誌、連絡ノート、医師の意見などを参考に作成している。カンファレンス、モニタリングを行い、利用者の状況の把握と目標達成状況を確認している。介護計画は、おおむね6ヶ月に1度見直しをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌、ご家族に送付している報告書、職員間の連絡ノートに重要事項を記入し、入居者の日々の変化を共有しながらケアプランに反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との連携、地域の婦人会、地域の消防団、保育園、中学校、地域包括センターなど多くの協力を得て多機能化に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道、絵手紙、音楽療法、園芸療法、マジック、納涼祭、餅つき、囲碁などの地域ボランティアの方たちのご協力、ご近所の方たち見守り助言などを頂きながら安全で豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	掛かり付け医（内科・整形外科・歯科）による、定期的な往診。急変時の対応に職員。ご家族も安心している。	入居時に、かかりつけ医が選べることを説明している。利用者は事業所の協力医をかかりつけ医として、月に2回内科、皮膚科の往診を受けている。精神科などの専門医は、原則として家族が対応しているが、事業所から書面で利用者の情報を提供している。受診結果は家族から事業所に、専門医から協力医に報告され、事業所、協力医、家族間で共有している。歯科医は週に1回口腔ケアや治療に来ている。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>掛かり付け医の看護職員と往診・受診の時に相談できるようにしている。電話での相談もいつでも快く対応してくれている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>大きな医療機関は現状では家族でないと情報をもらえないので、ご家族との連携を密にとりご家族から情報を提供して頂きながら退院後の生活を考える。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した時、ワーカー会議で職員がどこまでケアできるかを話し合い、掛かり付け医、ご家族と相談しながら特別養護老人ホーム、ケア付き有料老人ホームへの入所に繋げている。終末期の対応も取り組んで行きたいと思っている。</p>	<p>契約時に、常時医療行為が必要になった場合は、利用者や家族の意向を踏まえて、相談し検討することを説明し、理解を得ている。利用者や家族のニーズをくみ取りながら体制を整えてゆく方針である。</p>	<p>重度化や終末期の支援体制を整えていくうえで、職員間での方針の共有が重要です。看取りの経験のある職員の話の聞いたり、ターミナルケアの研修を実施するなど、徐々に準備されることを期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>社内研修で応急手当の訓練を行っている。また、救急マニュアルを緊急時すぐに見ることが出来るようにしている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地震発生による火災を想定した避難訓練や地域の消防団の協力による独自の消防訓練を行っている。近隣住民、商店、警察、消防と連携している。</p>	<p>地域の消防団や住民が参加した夜間想定避難訓練、消火訓練を行っている。東日本大震災後に、備品の拡充、連絡網の改定、災害時の集合場所をリビングから廊下に変更するなどの見直しを行っている。日常から、ユニット全員で出かける時は、一旦廊下に集合してもらい「緊急時は廊下に」といった意識をもってもらうように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年4月に接遇研修を行い、笑顔の重要性、言葉遣い、所作、態度などを学んでいる。日々のケアの中で気付いたことは、その場で職員同志で注意をしている。	「個人の尊厳を守り、プライバシーを守る」という理念を実践している。毎年接遇やプライバシー保護の研修を行い、言葉かけや態度について確認をしている。職員は、利用者に笑顔を向けながら、堅苦しさを感じさせない程度の敬語を使い会話していた。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや気持ちが表現できるような環境、雰囲気を作っている。散歩、レクリエーションなどの参加も自由で入浴時間なども希望の時間にしている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分を優先して一人ひとりのペースを大切にしている。一日のスケジュールは特に決めず、天気、入居者の希望を優先している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はできるだけ自分で決めて頂いている。できない方は職員が季節や好みを考えながら支援している。訪問理容院により好みのヘアスタイルにして貰っている。			
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が一緒に食事作り、盛り付け、配膳を行っている。食後は食器拭き。片付けも行っている。得意分野でお手伝いすることにより、様々な良い効果がでている。	食事は、食材を重視して、事業所の畑で収穫した無農薬栽培の野菜や、地域の商店で購入した質のよいものを使用している。利用者と職員は、調理、盛り付け、配膳などを一緒に行っている。和気あいあいとした会話が弾む中に、職員は「ありがとうございます」「助かります」といった労いの言葉を利用者に頻繁にかけていた。行事食は、担当となった職員が試作を重ね、毎回趣向を凝らした内容になっている。外食、出前も利用者の希望を聞いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士によるバランスの良い献立をもとに、一人ひとりの摂取量を職員が把握している。制限のある方は毎回計量している。摂取量が少ない方は医師に相談しながら支援している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎週火曜日に歯科衛生士による口腔ケアを行っている。職員も歯科衛生士による口腔ケアの指導を受けている。毎食後に職員が歯磨きの見守り、介助をしている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄の記録をもとに、それぞれの排泄パターンを把握し、トイレの声かけを行い、リハビリパンツ、尿とりパッドを使用している。トイレでの自然な排泄ができるように支援している。</p>	<p>排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握しトイレに誘導している。リハビリパンツなどの使用は、夜間や外出時など最小限にしている。トイレのドアにドレスハンガータオルを掛け、トイレの場所がわかりやすいようにしている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘の原因で不穏になられたり、具合が悪くなる事を職員が理解している。水分コントロール、散歩や体操とそれぞれの方に合わせた対応をしている。医師より困難な時は薬を処方している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一日おきの予定があるが本人の気持ちを大切に、希望にあわせて入浴出来るようにしている。入浴拒否の強い方には無理じいはせず、気持ち良くはいついていただけよう努力している。</p>	<p>入浴の曜日や時間帯は、利用者のこれまでの生活習慣や希望に合わせ、柔軟に対応している。入浴をしたがらない利用者には、入浴への負担感を軽減するため、足浴から勧めたり「往診の先生が来るから」など、入浴することに気持ちが向くような声かけをしている。希望に応じて同性介助をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来る限り、お手伝い、入居者同士のおしゃべり、散歩、余暇支援をすることが夜間の良眠にあわせ、居室で休息したり、昼寝をしたりしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の名称、目的、副作用がすぐ分かるように、薬情書がすぐみられるようにしてあり、薬の変更、増減、中止などがある時は連絡ノート、引継により徹底している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと、好きなことが発揮できるような場面を作っている。役割分担を決め生活に張り合いを持って、楽しめるように支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や入居者の希望にあわせ毎月外出行事を行っている。図書館、美容院（パーマ、毛染め）はご家族に協力して頂いている。友人との外出もある。	散歩は、利用者の状況に合わせて、毎日午前と午後に出かけている。散歩を希望されない利用者にも、声かけを工夫して、戸外に出かけられるよう支援をしている。月に1回利用者の希望にそった外出、外食を行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症であることによる、金銭トラブル、妄想等の出現あり、金銭は預からざるを得ない。ご本人には家族が預っていることを納得して貰っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の場合はご家族と相談の上で、掛けたいと言われた時にホームから家族に電話をしかけていただいている。自分で描かれた絵手紙を友人、家族に出している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要の無い音（誰も見ていないTV）職員同士の大きな声、程よい明るさなどの環境を大事にしている。季節ごとのディスプレイは入居者も参加しながら楽しんでいる。	リビングは、天井が高く、木の温もりが感じられ、明るく開放的である。共用の空間は、隅々まで掃除が行き届き大変清潔である。壁には、利用者の習字や絵手紙のほか、映画好きの利用者に配慮して昔の映画のポスターなどが貼られていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが2つ置いてあり入居者同士が楽しく過ごしている。一人になれる空間にもなっている。入居者同士お互いの居室を訪れてコミュニケーションをとっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具、お気に入りのカーテンなどそれぞれの入居者が工夫して生活している。	居室は、広々として清潔である。所持品は利用者の馴染み深いものを持ち込むよう勧めている。安全面に配慮し、タンスなどの家具は自分の背丈より低いものようにしている。どの居室からも四季折々の花が咲く樹木を見ることができる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い廊下とリビング、ダイニングを介してさりげない見守りができるように対面式キッチンにしてあり。食事の盛り付け、配膳、食器拭きなどのお手伝いなどが安心してできる。		

# 目 標 達 成 計 画

専業所名 グループホーム 都筑の丘

作成日 平成24年5月10日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		介護保険上での看取りはしていない。	グループホームでの看取りに関しては、職員間でもワーカー会議等でも話し合いをしている。法人として今後の取り組みについて前向きに検討していきたい。	開設から現在まで5名の方を見とりに近い形でお見送りをしてきました。現状の職員不足、介護負担等も考慮しながら最後まで普通の生活がホームでできるよう取り組んでいきたいと思っています	1年（次回評価まで）
2		家族アンケートの結果の問い10に対して100%の回答をいただいた。	来年度に向けてより一層努力し、他の項目の評価も今より向上を目指します。	社内研修での接遇訓練を常に意識しながら、問題が発生したらその場で注意しあい、笑顔、優しい言葉遣いを意識してケアに臨み、入居者、ご家族に安心していただけるように努力していきます。	随時
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。